

第44回蒲郡市地域公共交通会議 議事録

| | | | |
|---|-----|---------------------------|-----------|
| 1 | 日時 | 令和7年3月26日（水） 午前10時～11時10分 | |
| 2 | 場所 | 蒲郡市役所 本館3階 303会議室 | |
| 3 | 出席者 | 委 員 愛知工科大学機械システム工学科教授 | 村上新 |
| | | 委 員 名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授 | 松本幸正 |
| | | 委 員 愛知運輸支局 | 宮川貴彰 |
| | | 委 員 愛知県都市整備局交通対策課 | 石屋義道 |
| | | | （代理 吉野敬太） |
| | | 委 員 総代連合会会長 | 藤田幸三 |
| | | 委 員 形原地区公共交通協議会 | 天野忠則 |
| | | 委 員 東部地区公共交通協議会 | 横田幸吉 |
| | | 委 員 西部地区公共交通協議会 | 永島幹啓（欠席） |
| | | 委 員 三谷地区公共交通協議会 | 小田勝一 |
| | | 委 員 大塚地区公共交通協議会 | 小林正敬 |
| | | 委 員 西浦地区公共交通協議会 | 尾崎博敏 |
| | | 委 員 塩津地区公共交通協議会 | 榊原関保 |
| | | 委 員 蒲郡市身体障害者福祉協会 | 神田元治 |
| | | 委 員 蒲郡市老人クラブ連合会 | 鈴木香代子 |
| | | 委 員 蒲郡市社会福祉協議会 | 鈴木良一（欠席） |
| | | 委 員 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 | 柴谷武志（欠席） |
| | | 委 員 NPO法人ブックパートナー | 新井麻利子 |
| | | 委 員 蒲郡市ボランティア連絡協議会 | 山本なおみ |
| | | 委 員 蒲郡市子ども会連絡協議会 | 坪井英幸 |
| | | 委 員 蒲郡商工会議所 | 小澤素生 |
| | | | （代理 青木宣貴） |
| | | 委 員 蒲郡市観光協会 | 杉山和弘（欠席） |
| | | 委 員 名鉄バス株式会社 | 後藤泰之 |
| | | 委 員 豊鉄タクシー株式会社 | 長縄則之 |
| | | 委 員 株式会社かねー自動車 | 黒木成美 |
| | | 委 員 名古屋鉄道株式会社 | 高井勇輔 |
| | | | （代理 丸山浩喜） |
| | | 委 員 公益社団法人愛知県バス協会 | 小林裕之（欠席） |
| | | 委 員 愛知県タクシー協会 | 深谷克巳 |
| | | 委 員 愛知県交通運輸産業労働組合協議会 | 壁谷政志 |
| | | 委 員 愛知県蒲郡警察署 | 松井晴一（欠席） |
| | | 委 員 東三河建設事務所 | 奥谷敦史 |
| | | 委 員 蒲郡市長 | 鈴木寿明 |

| | | |
|-------------------|------------|---------------------------|
| 委 員 | 蒲郡市市民生活部長 | 大森康弘 |
| 事務局 | 蒲郡市交通防犯課長 | 磯貝友宏 |
| | 蒲郡市交通防犯課係長 | 伴文明 |
| | 蒲郡市交通防犯課主事 | 石川雄策 |
| 地域公共交通計画推進事業受託事業者 | | 三菱ＵＦＪリサーチ&コンサルティング株式会社 ２名 |

4 議題

(1) 開会挨拶

5 報告事項

(1) 蒲郡市内公共交通の利用状況等について・・・・・・・・・・【資料１】

(2) 名鉄西尾・蒲郡線の運行について・・・・・・・・・・【資料２】

6 協議事項

(1) 令和７年度蒲郡市地域公共交通会議事業計画、予算（案）について・・・・・・・・【資料３】

(2) 塩津地区支線バスの運行について・・・・・・・・・・【資料４】

7 その他

8 議事内容

(1) 開会

・ 出席委員が２６名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第７条第２項の規定により会議が成立すること、本日の会議が公開となっており、傍聴を希望される方がいることが事務局より報告された。

(2) 議題

・ 開会挨拶

蒲郡市長より、３月１９日の名鉄西尾・蒲郡線対策協議会総会において、令和８年度以降について鉄道運行存続する方針が決定された。蒲郡線を対象としたみなし上下分離方式による事業構造の変更を検討する。方針では、令和９年度以降、運行期間は１５年間を基本としている。西尾・蒲郡線のある暮らしを基盤に、数多くある蒲郡の魅力を柱に、県外・国外にも発信していきたい。

１０月には、塩津地区支線バスの運行開始が予定されている。塩津地区の皆様のご尽力により運行計画が策定されている。

引き続き、関係者の皆様と連携して事業を進めてまいりたい、とのあいさつがあった。

・ 議長より本日の議事録署名人として２名の委員が指名された。

(3) 協議事項

ア 蒲郡市内公共交通の利用状況等について

・ 事務局より資料１に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

（委 員）

- ・ 西尾・蒲郡線の利用が伸び悩んでいる。定期について、通勤はどこもこれ以上戻ってこないが、通学の減少がなぜかは分析できるとよい。定期外についても、コロナ前を超えてきているところもあるので、それを目指してもらいたい。

コミュニティバスについて、各地区での努力がありこの結果に繋がっていることは、改めて素晴らしいと思う。各地区から取組等についてぜひ一言ずついただきたい。

(形原地区委員)

- ・ 今年度は年間 6,000 人達成を目標にして取り組んできた。昨年度より早く到達した、早速回覧板を回した。

9 人乗り車両で 1 便あたり 5.2 人という数字はとて多く利用をいただいている。6,000 人目の利用者の方たちにも喜んでいただいたので、また来年も呼びかけていけたらと思っている。

(三谷地区委員)

- ・ 今年度は利用が減ってしまっている。特に何かということはやっていない。市民病院につなげたいという地域からの要望もあり、市民病院に繋がれば利用が増えると考えている。少しずつでも進めていきたい。

(大塚地区委員)

- ・ 特にこれということはないが、老人クラブの会合や公民館での会合などで周知・PRを行っている。

(西浦地区委員)

- ・ 1 年目であるが、恥ずかしい成績である。ただ、公共交通を利用して行く場所がないという声がある。イベント等をやりながら乗客を増やしていこうと考えている。例えばこれからの桜の時期、温泉組合にも協力いただきイベントを行うなど考えていきたい。

(委員)

- ・ 地区によって考えていることがやはりあると思う。せっかくなので皆で情報共有していただき、取組みを進めてもらいたい。期待している。

イ 名鉄西尾・蒲郡線の運行について

- ・ 事務局より資料 2 に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

なし

(4) 協議事項

ア 令和 7 年度蒲郡市地域公共交通会議事業計画、予算（案）について

- ・ 事務局より資料 3 に基づく説明が行われ、全会一致で承認された。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 西尾・収入の 2. 補助金における国庫補助金について、前年度が 0 円になっているがなぜか。

(事務局)

- ・ 蒲前年度までは、3. 諸収入に計上していたが、制度上の処理手続きの変更に伴い、今年度は3. 諸収入から2. 補助金に計上を変更したため。

(委員)

- ・ 補助金を受けるためには様々な要件があると思う。補助要件をクリアすることを考えると、市独自の運行方法を考えた方がより利用が増えるということはないか。

(事務局)

- ・ 交通空白地を運行する路線が幹線に接続することが要件となっている。本市のコミュニティバスは支線として構築をしてきたもので、基本的に幹線に接続することが利便につながると考えられる。補助金もその考え方で用意されているので、使えるものは使っていくということでやっている。

(委員)

- ・ 最終的には多くの方に利用してもらうことが目的であると考え。補助金をもらうために様々な要件がある中で運行するのが良いのか、市独自のやり方により多くのりようにつなげるのがよいのかという判断があるかと思う。

(委員)

- ・ 補助金をもらうために、本来こうしたいということをせず、補助金をもらうための路線になっていないかという話だと思われる。決してそうではなく、市や地区にとって望ましいものをつくって、結果としてもらえるところはもらっているということでよい。

(事務局)

- ・ その通りである。

(委員)

- ・ 最近では、少量輸送というものもできてきており、もう少し先のことだが将来的には新しい交通システムを検討することもよいだろう。

少なくとも本末転倒にはなっていない、補助金を申請するための路線にはなっていないということ。

イ 塩津地区支線バスの運行について

- ・ 事務局より資料4に基づく説明が行われ、全会一致で承認された。

〔質疑〕

(委員)

- ・ 西迫町向ヒ山の停留所などで、バスが停車したとき、交差点から5m離れているか。

(事務局)

- ・ 停車時には交差点から5m離れて停まることができる。

(委員)

- ・ 市内最後の地区のくるりんバスとして10月運行開始の目途が立った。お礼を兼ねて報告したい。先日の地区の会議で、愛称についてはひらがなで「しおつ」と決まった。バス停のデザインも決まった。シンボルマークについて公民館だよりを使って募集を

していく。住民の関心を高め少しでも利用されるよう、住民の参加を促している。先ほど他地区の状況を教えてもらったが、塩津地区でも少しでも利用しやすい、活用しやすいよう意識を高めていきたい。引き続きお願いする。

(委 員)

- ・ いろいろと考えていただいたことについて評価する。名鉄バスの走っている地域だが、乗継可能なバス停はあるのか。

(事務局)

- ・ バスについてはダイヤの詳細を確認できていないが、競合しない配慮から結節点はほぼなく、路線バスに乗り継ぎできるという設定にはなっていない。三河鹿島駅は停留所が並んでおり、乗り換えは可能である。

(委 員)

- ・ 乗り継ぎのすべてを合わせるのには難しく、どこかを犠牲にするのは仕方がない。走らせながら、利用者の声に合わせて、必要なところをダイヤ調整していければよいと思う。ダイヤについては、地域公共交通会議で議論して変更できる。

ショッピングセンターについては、十分な滞在時間を確保できないことや、時間が空きすぎることもあると思われる。他の地区にとってこの路線は魅力的だと思うので、少し大回りかもしれないが乗り継いで利用してもらえればと思う。運行を楽しみにしている。

(5) その他

(事務局)

- ・ その他として、本日の配布資料「PayPay の利用について」と「東三河 MaaS の実績について」紹介させていただく。

資料に基づき説明した。

(委 員)

- ・ この会議には初回から出席し、長年携わってきたが委員を交代する。心残りの課題がある。形原地区でベイシア・カインズへ路線を伸ばすことについて、早期に実現していただきたい。

(市 長)

- ・ 本日も様々な意見をいただいた。市民の利便性を高めることが目的であり、塩津地区などその観点でどんどんアップデートしていきたい。また、名鉄バスと支線バスの関係について、しっかり緊密にやっていきたい。

冒頭でにしがま線の話をしていただいたが、ゴールではなく、基本 15 年の運行が決まったので、これからさらに利用促進を図り、駅周辺のまちづくりも行っていきたい。

支線バスについてそれぞれコメントをいただいた。天野委員には、ここまでコミュニティバスを引っ張っていただいたことに敬意を表したい。市全体の支線バスの発展を併せてお願いする。

本日はご多用の中、ありがとうございました。

(事務局)

- ・ 次回の地域公共交通会議について、6月25日14時30分からを予定、正式な開催案内を後日送付するとの連絡を行い会議は終了した。